

## 2024 年度 シラバス

<b>科目名</b> 認知発達特論 (R6 認定通信)	<b>単位数</b> 4 単位	<b>担当教員</b> 伊藤 一美
<b>テキスト</b> (1) 市川伸一 (編) (2010), 『現代の認知心理学 5 発達と学習』, 北大路書房 ISBN-10:4762827207 (2) 宮本信也 (編) (2019), 『学習障害のある子どもを支援する』, 日本評論社 ISBN-10:453556373X		
<b>科目の概要</b> 本科目では、知的発達症(知的障害)を含む精神発達症(発達障害)のある子どもの心理・生理・病理を理解することとおして、学習上のつまずきに対応した支援方法を検討できる力をつけることを目指す。とくに、読むこと、書くこと、数の理解と計算の発達過程を学び、読むこと、書くこと、数と計算という教科教育の基本となる認知能力に焦点をあて、国語と算数の学習支援のあり方について、最新の知見を踏まえて、研究を深めることを目標とする。この科目をとおして、知的発達症(知的障害)を含む精神発達症(発達障害)のある子どもだけではなく、すべての子どもを中心に置き、教育の公正性とインクルーシブ教育について、理解を深めることを期待する。		

### I 科目の目的・ねらい

文部科学省「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)平成 24 年 7 月」には、すべての学校種の教員に発達障害の知識・技能が必要とされることが明記されている。さらに文部科学省「特別支援教育を担う教師の養成の在り方等に関する検討会議報告令和4年3月」には、「特別支援教育の『個別最適な学び』と『協同的な学び』に関する知見や経験は、障害の有無にかかわらず、教育全体の質の向上に寄与」ことを踏まえ、教員養成段階・採用段階、初任者からの 10 年間、中堅、管理職へと、校内体制の整備、キャリアパスの多様化、人事交流の推進による専門性向上を目指すことが示されている。そこで、本科目では学習上に特異な困難を示す精神発達症(発達障害)である、読み書き障害(発達性ディスレクシア)、算数障害(発達性ディスカルキュリア)について、最新の知見を踏まえて理解を深め、令和の日本型学校教育が目指している公正かつ個別最適化した学びについて研究することを目的とする。

この授業の具体的な到達目標は、以下の 5 つである。

1. 読むこと書くことの発達過程を理解する
2. 数と計算の発達過程を理解する
3. LD(限局性学習症,学習障害)の概念およびアセスメントを理解する
4. 読み書き障害(発達性ディスレクシア)と算数障害(発達性ディスカルキュリア)の概念およびアセスメントを理解する
5. 根拠に基づく学習支援のあり方を研究する

## II 授業計画と評価

全15回の授業計画は以下のとおりである。

- 第1回 本科目の内容・学び方について学ぶ
- 第2回 「言語力の発達過程」を学ぶ《テキスト(1)第1章》
- 第3回 「数量概念の獲得過程」を学ぶ《テキスト(1)第2章》
- 第4回 「さまざまな認知機能の発達」を学ぶ《テキスト(1)第4・5・6章》
- 第5回 「教科学習の理論」を学ぶ《テキスト(1)第7章》
- 第6回 「さまざまな学習と教育」を学ぶ《テキスト(1)第8・9・10・11章》
- 第7回 「認知心理学と教育実践」を学ぶ《テキスト(1)第12章》
- 第8回 LD(限局性学習症,学習障害)の概念を学ぶ《テキスト(2)第1・2・3章》
- 第9回 読み書きのつまずき・発達性読み書き障害を学ぶ《テキスト(2)第4・5章》
- 第10回 数と計算のつまずきと算数障害を学ぶ《テキスト(2)第6・12章》
- 第11回 LDのある子どもの英語学習を学ぶ《テキスト(2)第7章》
- 第12回 LD(限局性学習症,学習障害)の評価を学ぶ《テキスト(2)第8章》
- 第13回 LDのある子どもの学習支援を学ぶ《テキスト(2)第9・10・11・14章》
- 第14回 ワーキングメモリと学習支援について学ぶ《テキスト(2)第13章》
- 第15回 まとめ 根拠に基づく学習支援について研究する

科目修得試験

本科目は、レポート4単位である。評価は「レポート評価」(50%)、「科目修得試験」(50%)の割合で総合して評価する。

## III 参考文献

- (1) 大津 由紀雄(編)(1995),『認知心理学3 言語』,東京大学出版会
- (2) 吉田 甫(2003),『学力低下をどう克服するか—子どもの目線から考える』,新曜社

## IV その他

この科目をとおして、教育の公正性とインクルーシブ教育について、理解を深めることを期待します。